

地域の防災を担う 「川越市消防団」

最高荣誉特別表彰「まとい」を受賞



昨年行われたポンプ操法認定審査会の様子



受賞した「まとい」



5月に行われた合同訓練で
あいさつをする野村団長



礼式訓練は消防の基本です



放水訓練を行う福原分団

地域の防災を担っている「川越市消防団」。地域で火災などが発生した場合には、現場へ消防職員と共に駆けつけ、消火に当たっています。

同消防団は、日々の活動が認められ、三月七日に日本武道館（千代田区）で、消防団にとって最高の荣誉とされる「まとい」を受賞しました。全国二千四百以上ある消防団の中から、活動が優秀な十団の中に選ばれました。

川越市消防団は、団本部および十二分団（主に本庁管内を担当する第一・第二・第三分団と芳野・古谷・南古谷・高階・福原・大東・山田・名細・霞ヶ関の各分団）で組織されています。各分団の定員は二十五人。現在団員は、三百二十二人います。ほとんどの方が、会社勤めや自営業・農業などの仕事をしています。

建物火災などが起こると、消防署から分団長に緊急連絡が入り、火災現場

に向かいます。現場には、火災の起こった地域の分団と隣接の二分団が駆けつけ、消火活動や消防職員の後方支援などを行います。

また、少なくとも月一回は夜の警戒を行うなど、火災予防活動も積極的に取り組んでいます。「真冬の活動はつらいですね。消火活動が終わって家に帰っても体が冷え切ってなかなか寝付けません。しかし、地域の安全を自分たちの手で守ることができることに、充実感があります」と山下勝巳福原分団長（31歳・今福）。

団員が現場で迅速に消火活動を行うために、訓練は欠かせません。通常、分団ごとに月に数回と、全分団が集まって年数回の訓練を行います。五月十一日には、県中央防災基地（川島町）で、同消防団と川島町消防団が合同し

「消防団に入ると苦労がありたいへんだと考える方が多く、現在、団員を確保することが難しくなっています。しかし、消防団活動は地域の安全を自分たちの手で守ることができる、とても意義のある活動です。ぜひ地域の消防団に参加してください」と、野村廣団長（57歳・古谷本郷）。

消防団はこれからも、消防技術を磨き、地域の防災を地域の皆さんと協力して守り続けて行きます。



夜の警戒に向かう大東分団

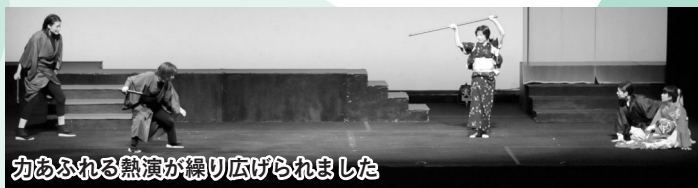
て、団結力や厳正な規律を身に付けるための礼式訓練と消防車の各種操作を学ぶ機関員研修を、雨の中行いました。

昨年八月には、埼玉川越総合地方卸売市場（大袋）で、(財)埼玉県消防協会川越支部主催のポンプ操法認定審査会が行われました。同審査会は、二年に一度あり、消防団の技術を競い合い、技術力を認定するものです。昨年は、市消防団のすべての分団がいちばん上位の級である、秀級に認定。消防団技術力の高さを、示すことができました。

団員は、地域の安全を担っていると、この自覚を強く持っています。地域の皆さんからの信頼が何よりの励みになります。団員が、いざというときに迅速に行動するためには、地域の皆さんの理解と協力が必要です。

高校生の手による演劇祭

5月3日・4日、第29回川越・坂戸地区春季高校演劇祭が、川越と坂戸地区の高校10校が参加し、尚美学園大学川越キャンパス（豊田町1丁目）で行われました。



力あふれる熱演が繰り広げられました

県内で先駆けとなった、高校生主体による演劇祭です。出演する皆さんが、制作・照明・音響・進行・大道具の各委員会に分かれ、企画から運営まで担当。委員会の活動は、学校の枠を超えて行われます。「出演と企画運営を両立するのはたいへんですが、自分たちでやり遂げることによって自信につながります」と、制作委員長の砂押明香里さん（18歳・川越女子高校）。2日間で約800人の皆さんが訪れ、会場は満席になりました。

市立川越高校野球部、春の県大会優勝！



舟橋市長に優勝報告をする市立川越高校野球部の皆さん

5月9日、春季埼玉県高等学校野球大会兼関東地区大会予選の優勝報告に、市立川越高校の野球部員22名が訪れました。主将の岡田真喜さん（3年）は、「夏の大会では甲子園を目指し、頑張ります」と抱負を語りました。



約1,400人の皆さんが参加しました

体育館に響く元気な声

5月10日、川越運動公園総合体育館で第61回川越市民体育祭スポーツ少年団の部が行われました。当日は、あいにくの雨。外で予定されていた競技は中止となり、室内でできるユニホッケーやトランポリンなど、14種目が行われました。競技に参加した子どもたちは、元気な歓声を響かせていました。



白熱するユニホッケー



絶妙のバランスでコーナーを疾走!!

行い、瞬発力などを高めています。「ショートトラックの魅力は、スピード感や駆け引きです」と渡辺さん。今は、来年一月にカナダで行われる、世界ジュニア選手権大会の出場を目指し、練習に取り組んでいます。

一月に長野県で開催された、国体冬季大会ショート競技ショートトラック少年男子千メートルで優勝した渡辺さん。将来の夢は、六年後ロシアで開催されるソチオリンピックへ出場し、メダルを獲得すること。スケートとの出会いは、幼稚園の時に姉の佳央里さんと共に参加した、市のスケート教室。小学二年生の冬に、スケートを本格的に始めました。実力はめきめきと伸び、翌年からは、常に県大会の記録を塗り替えていました。中学一年生の時には、一年ほど記録が伸びない期間が続きましたが、ひたすら練習をすることで克服しました。現在は、週二回、川越スケートセンターで一時三十分ほど練習を行っています。また、高校でバスケットボール部の練習や筋力トレーニングを行い、瞬発力などを高めています。



国体の賞状を手にする渡辺さん

渡辺啓太さん（16歳・上野田町）

かわごえ
川越
びと
46